

松阪市の個々の課題

1. 人口減少対策について

問9 あなたの結婚や子育てについてのお考えなどをおうかがいします。

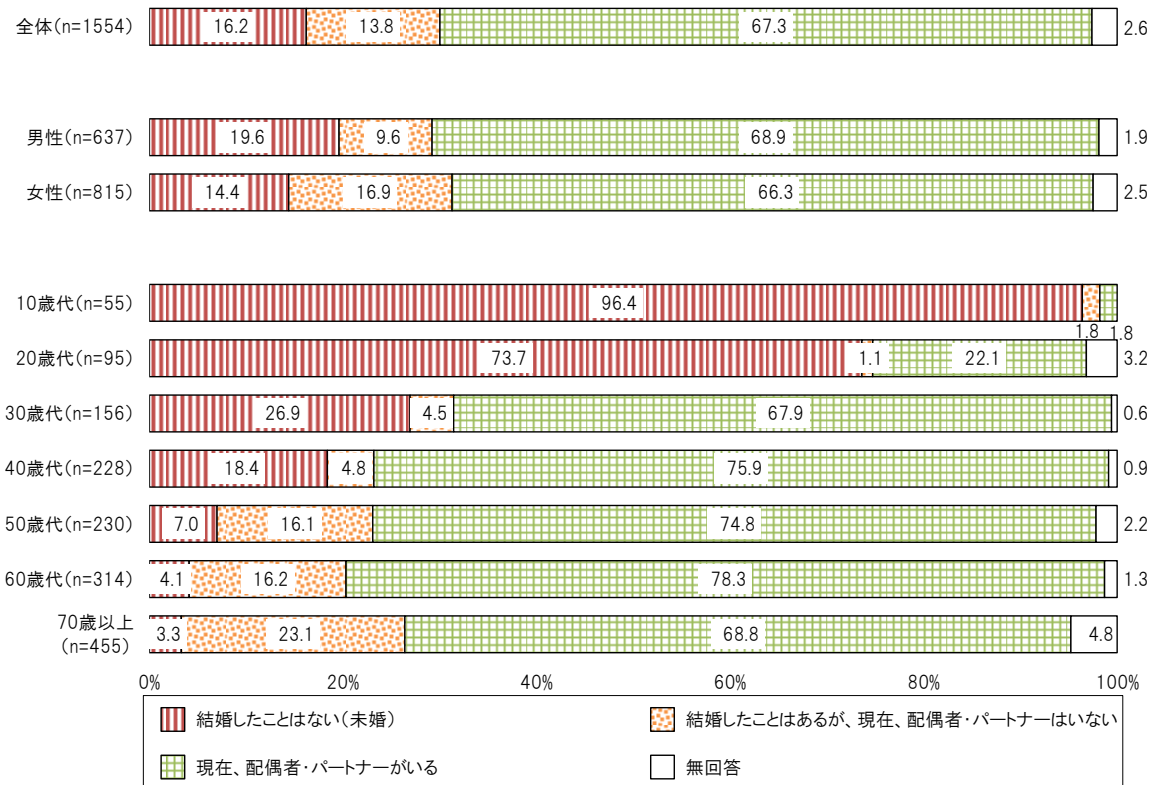
(1) あなたはこれまでに結婚をしたことがありますか。(○は1つだけ)

「現在、配偶者・パートナーがいる」が67.3%で最も高く、ついで「結婚したことはない(未婚)」が16.2%、「結婚したことはあるが、現在、配偶者・パートナーはいない」が13.8%となっている。

性別にみると、「結婚したことはない(未婚)」は男性では19.6%であるのに対し、女性では14.4%と5.2ポイントの差がみられる。

年代別にみると、「現在、配偶者・パートナーがいる」の割合は、10歳代では1.8%、20歳代では22.1%と低いのが、30歳代以上になると7割程度と高くなっている。「結婚したことはない(未婚)」は、40歳代より若い世代で全体平均より高くなっている。

問9(1) 結婚状況

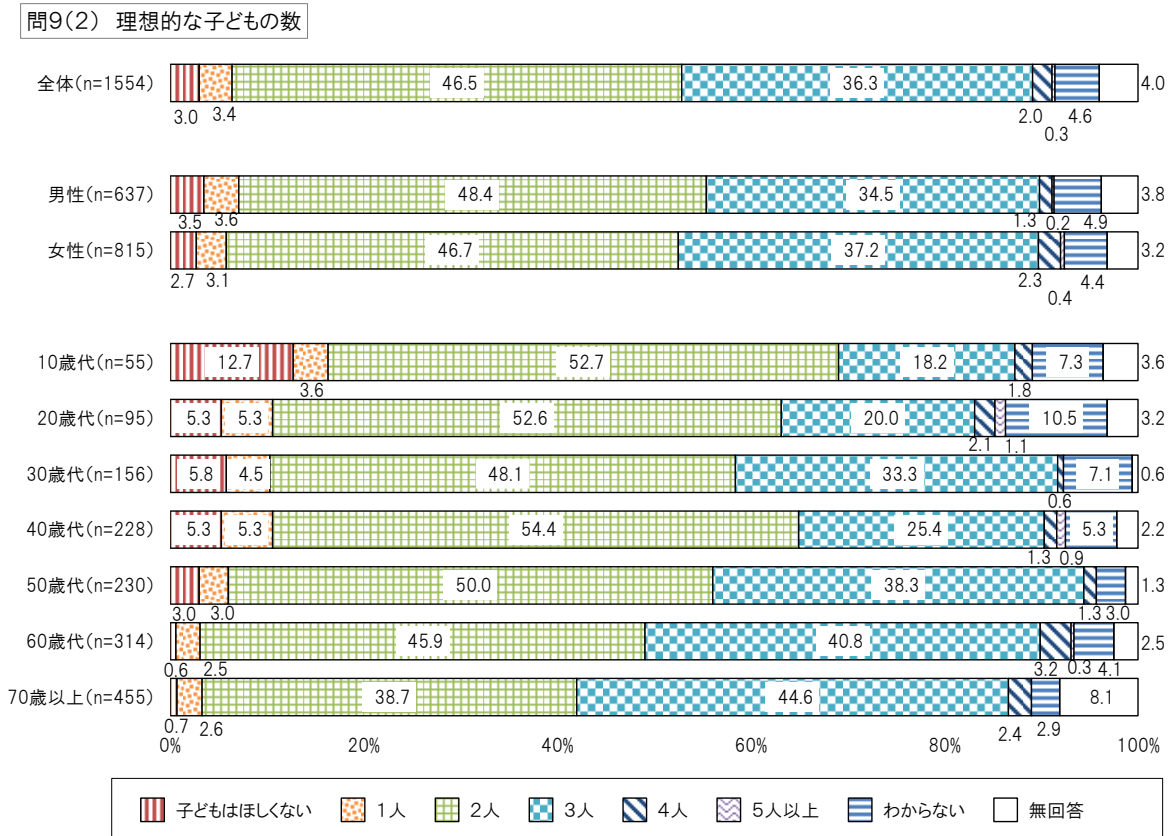


(2) あなたが理想と考える子どもの数をお答えください。すでにお子さんがいらっしゃる方は、あなたが最も理想と考える（または考えていた）子どもの数をお答えください。（〇は1つだけ）

理想と考える子どもの数として「2人」が46.5%で最も高く、ついで「3人」が36.3%となっており、それ以外は5%以下で大きな差はない。

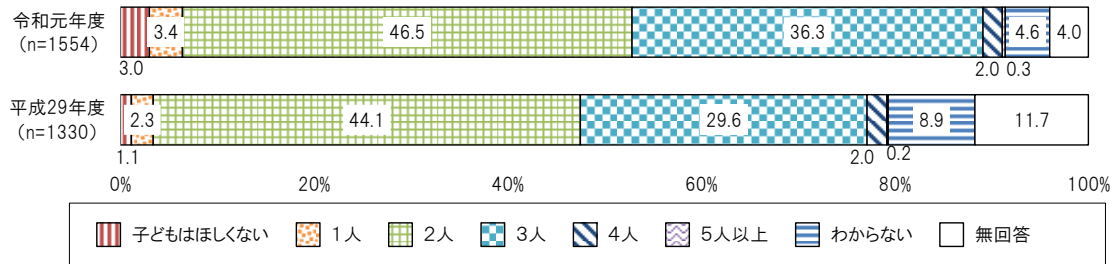
性別にみると、「2人」は男性の方が、「3人」は女性の方が若干多くなっているが、男女間で大きな差はみられない。

年代別にみると、若い年代の方が「2人」が多く、高齢の年代の方が「3人」が多くなっている。「子どもはほしくない」は、10歳代では12.7%と他年代に比べ非常に高く、20歳代から40歳代では5%程度となっている。



前回と比較すると、「2人」、「3人」とも増加しているが、「わからない」と「無回答」の合計が前回は20.6%であったのに対し、今回は8.6%と12ポイント少なくなっており、その影響による変化であることも考えられる。

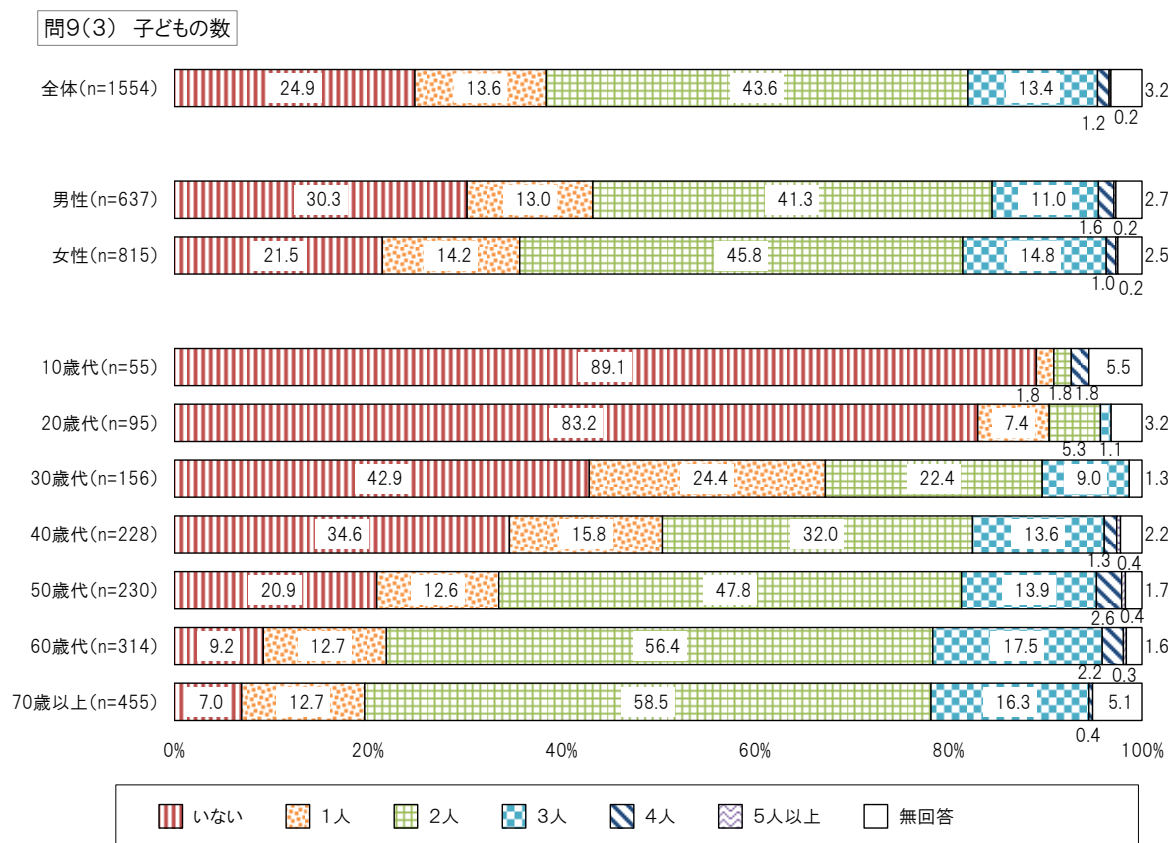
問9(2) 理想的な子どもの数



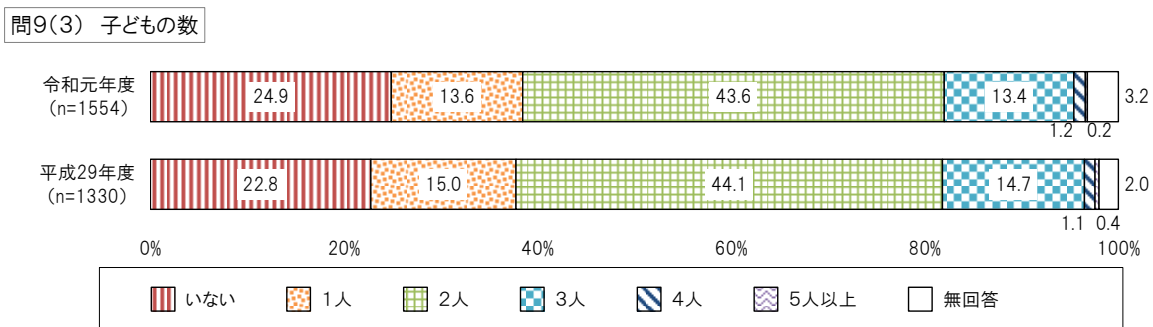
(3) あなたはお子さん（自立しているお子さんも含む）がいらっしゃるでしょうか。（〇は1つだけ）

「2人」が43.6%で最も高く、ついで「いない」が24.9%、「1人」が13.6%となっている。性別にみると、「いない」は男性で30.3%であるのに対し、女性では21.5%と、男性の方が8.8ポイント多くなっている。

年代別にみると、「いない」は年齢が低いほど割合が高くなっており、10歳代から40歳代では「いない」が最も多くなっている。10歳代、20歳代では8割以上が「いない」となっている。



前回と比較すると、「いない」の割合は22.8%から24.9%に2.1ポイント増加している。



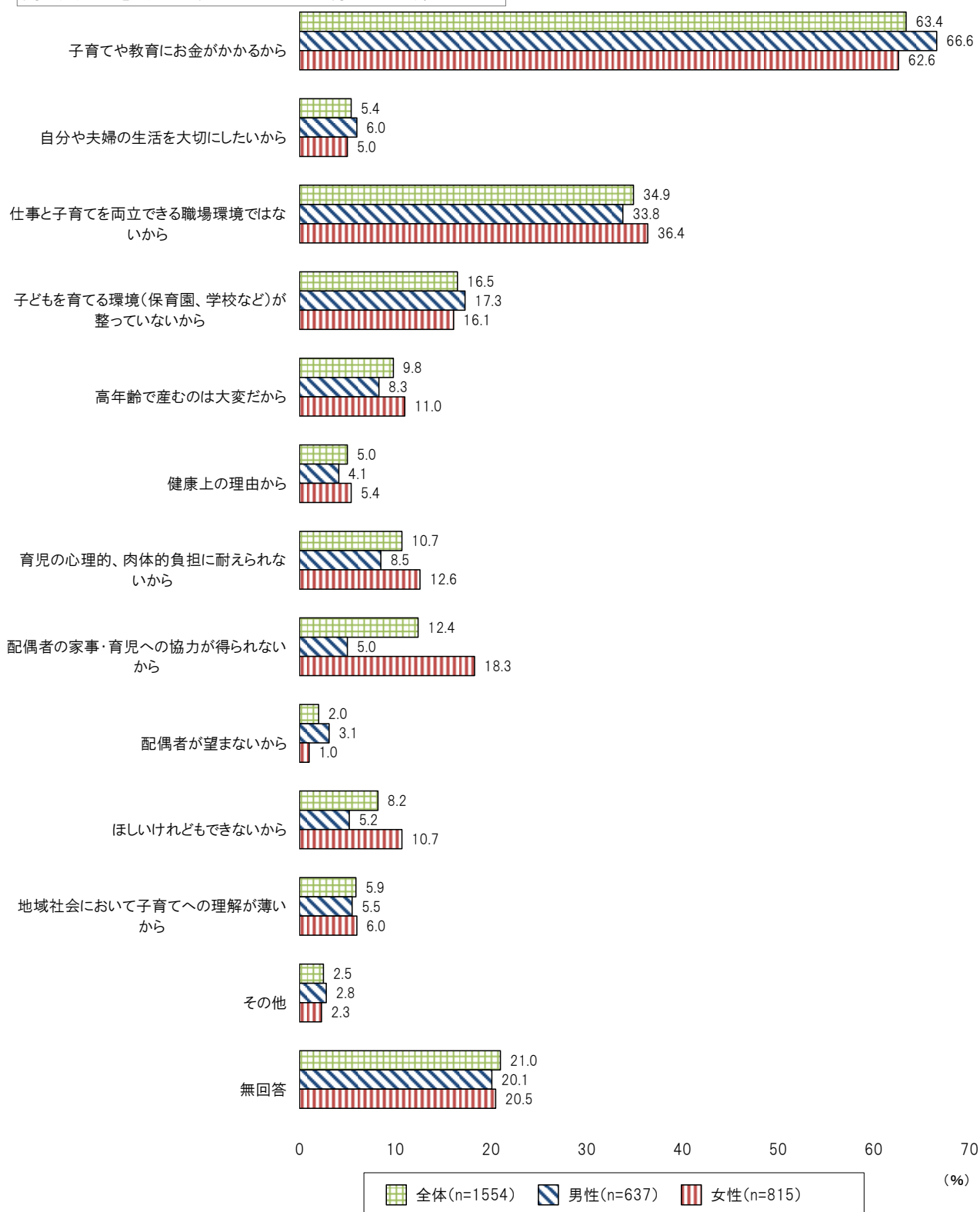
(4) 実際の子どもの数は理想の子どもの数より少ないという傾向があります。お子さんのいらっしゃる方、または、今後子どもを欲しいと考えている方におうかがいします。理想的な人数の子どもを産み育てるのが難しい理由は何だと思えますか。あなたのお考えに近いものをお答えください。(〇はいくつでも)

「子育てや教育にお金がかかるから」が63.4%で最も高く、ついで「仕事と子育てを両立できる職場環境ではないから」が34.9%、「子どもを育てる環境（保育園、学校など）が整っていないから」が16.5%となっている。

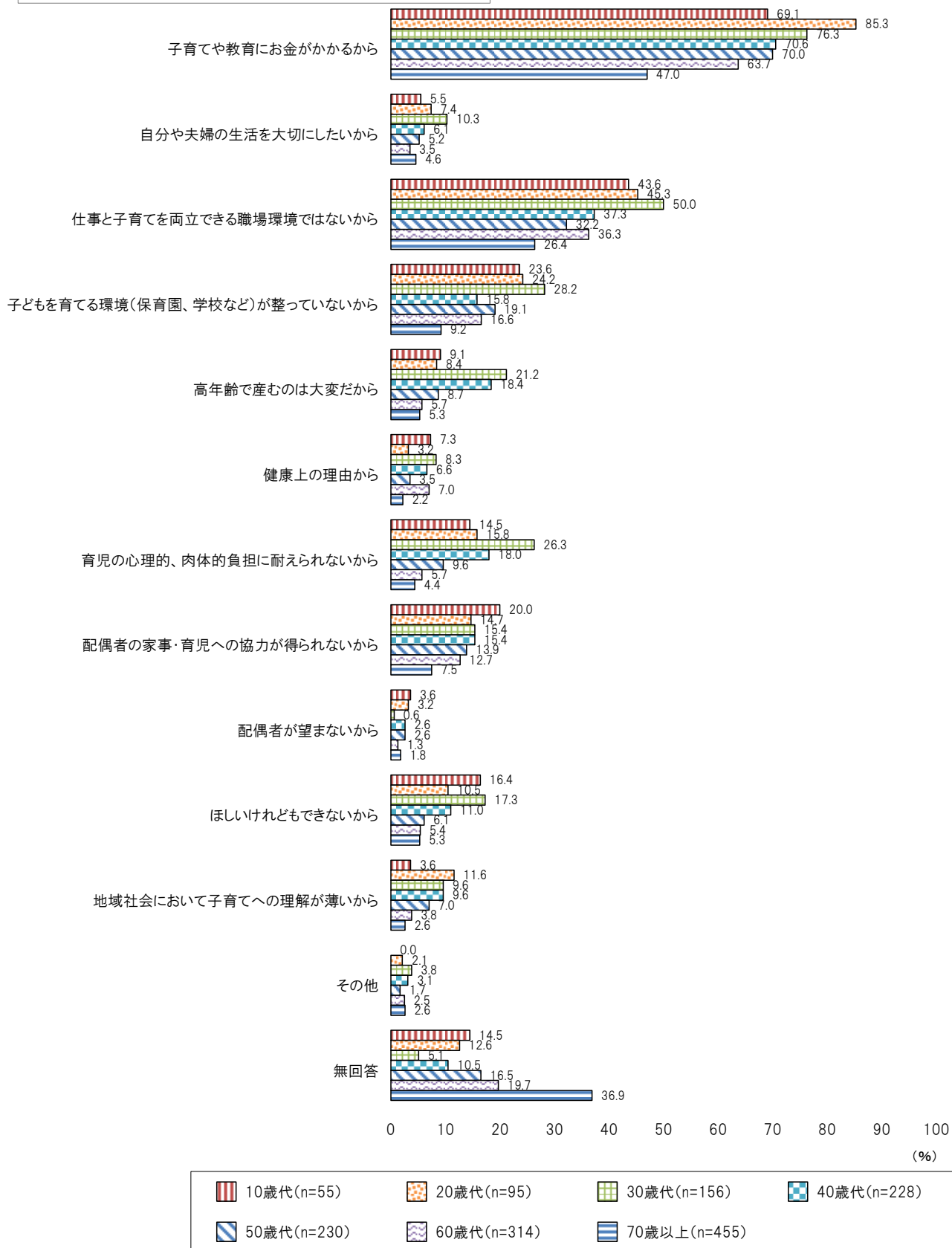
性別にみると、1番目、2番目に高い項目は同じであったが、3番目は男女で異なり、男性では「子どもを育てる環境（保育園、学校など）が整っていないから」、女性では「配偶者の家事・育児への協力が得られないから」となっている。

年代別にみると、いずれの年代も1番目、2番目に高かったのは全体と同じ項目であったが、3番目は40歳代のみ「高年齢で産むのは大変だから」であり、他の年代では「子どもを育てる環境（保育園、学校など）が整っていないから」であった。

問9(4) 理想的な人数の子どもを産み育てるのが難しい理由



問9(4) 理想的な人数の子どもを産み育てるのが難しい理由

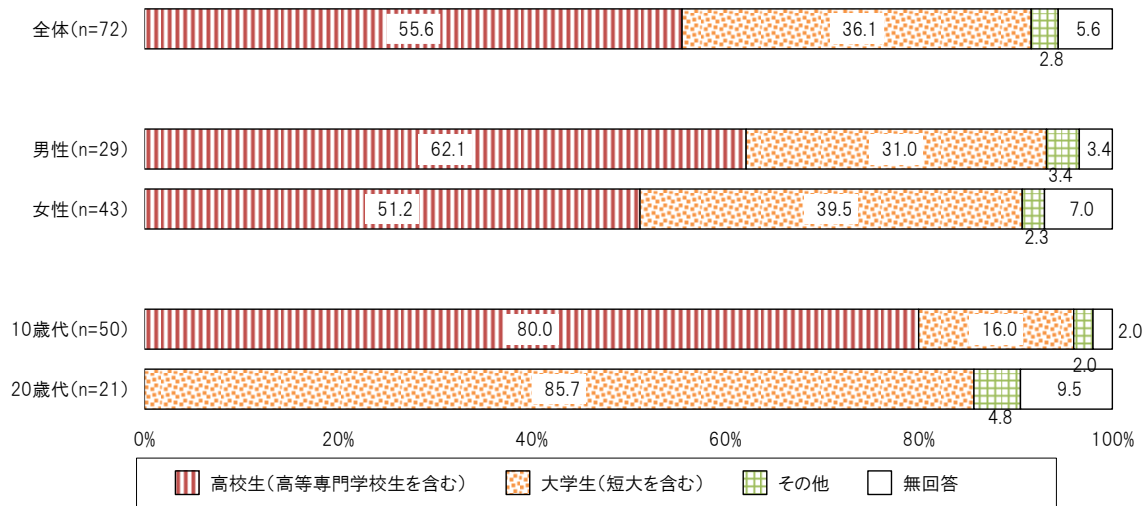


問 10 学生・専門学校生の方に、将来の進学・就職についておうかがいします。

(1) 現在の就学区分についてお答えください。(○は1つだけ)

※問 1 (5) 職業で「学生・専門学校生」と回答した方のみを対象。

問10(1) 現在の就学区分



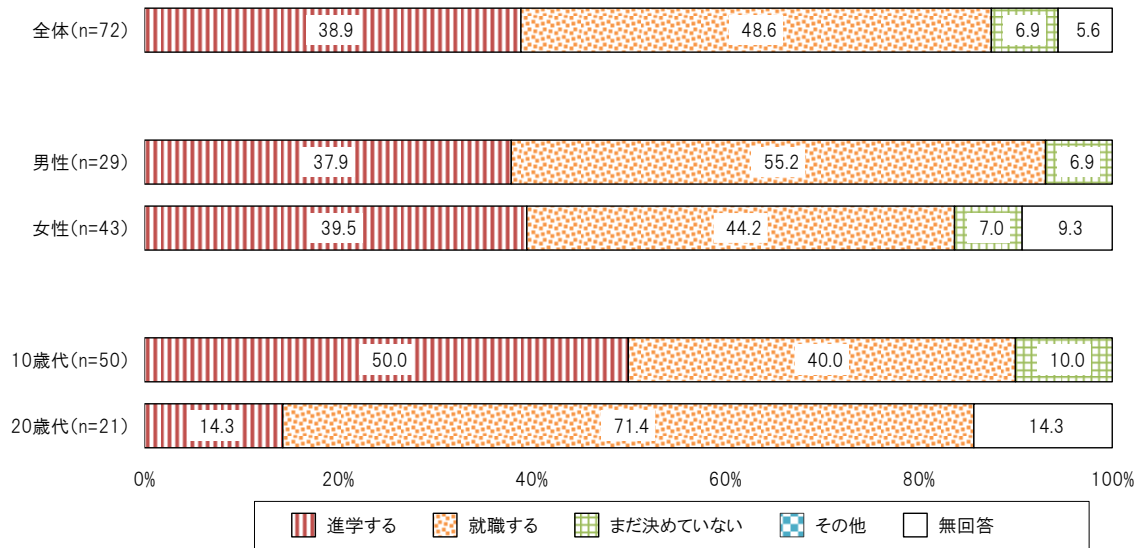
(2) 現在の学校の卒業後の進路についてどのように考えていますか。(〇は1つだけ)

「就職する」が48.6%で最も高く、ついで「進学する」が38.9%、「まだ決めていない」が6.9%となっている。

性別にみると、「就職する」は男性では55.2%であるのに対し、女性では44.2%と11ポイントの差がみられる。

年代別にみると、10歳代では「進学する」が最も多く、20歳代では「就職する」が71.4%で最も多くなっている。

問10(2) 現在の学校の卒業後の進路

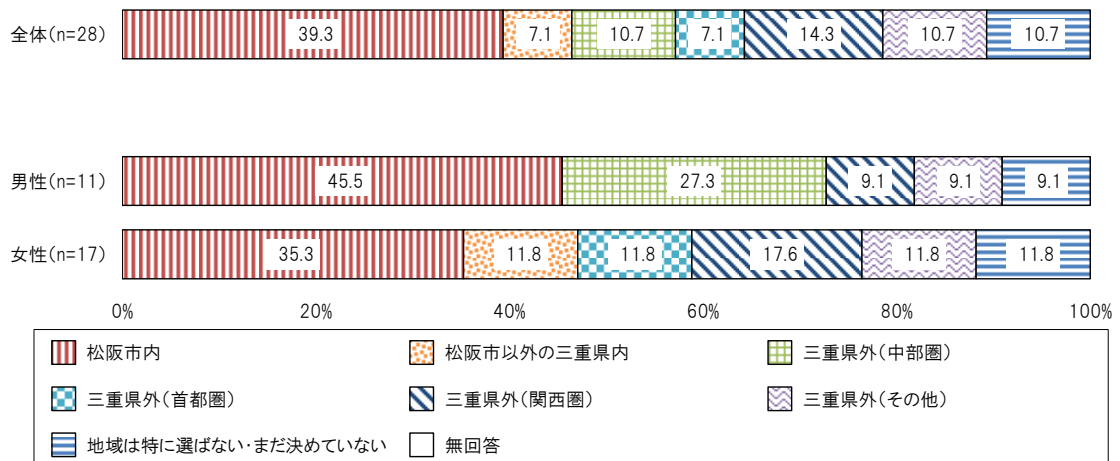


(3) 進学(予定)した場合どこに住みたいですか。あなたの希望(決まっていれば予定)をお答えください。(〇は1つだけ)

「松阪市内」が39.3%で最も高く、ついで「三重県外(関西圏)」が14.3%、「三重県外(中部圏)」が10.7%となっている。

性別にみると、「松阪市内」は男性で45.5%であるのに対し、女性では35.3%と10.2ポイント男性が高くなっている。

問10(3) 進学(予定)した場合どこに住みたいか



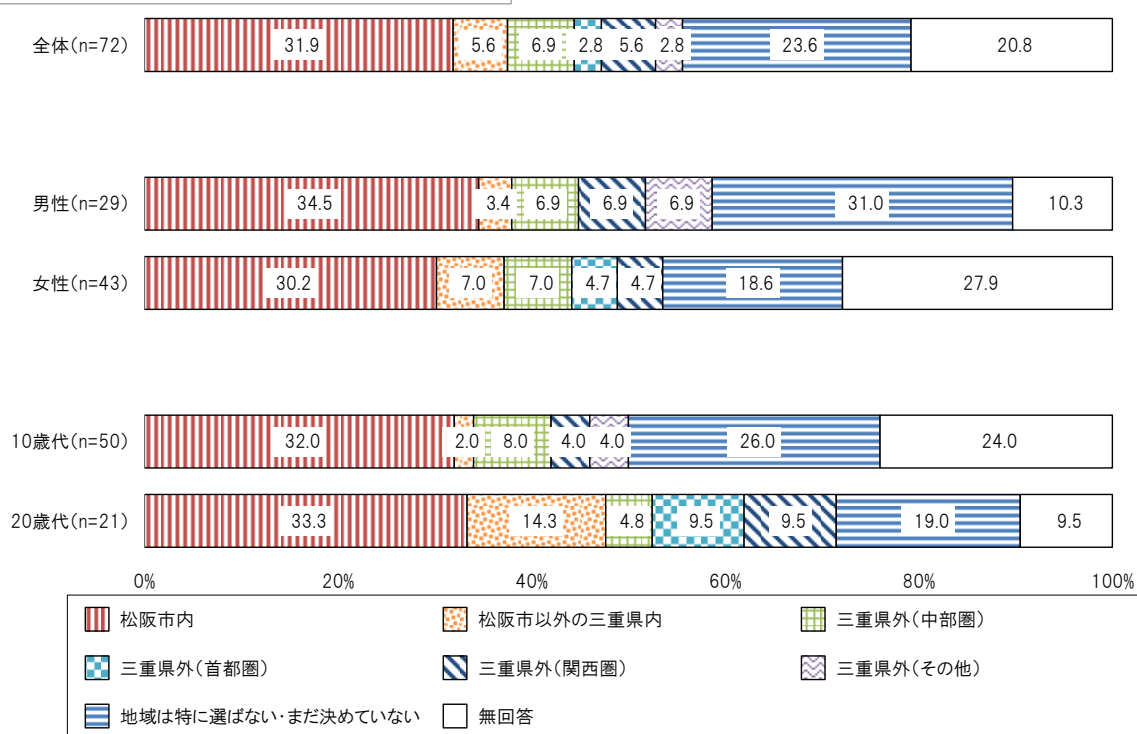
(4) 将来あなたが就職した場合どこに住みたいですか。あなたの希望（決まっていれば予定）をお答えください。（〇は1つだけ）

「松阪市内」が31.9%で最も高く、ついで「地域は特に選ばない・まだ決めていない」が23.6%、「三重県外（中部圏）」が6.9%となっている。

性別にみると、「地域は特に選ばない・まだ決めていない」は男性の方が12.4ポイント高くなっている。

年代別にみると、20歳代では「松阪市以外の三重県内」の割合が、比較的高くなっている。

問10(4) 将来あなたが就職した場合どこに住みたいか



問 11 あなたの定住についての考え方についておうかがいします。

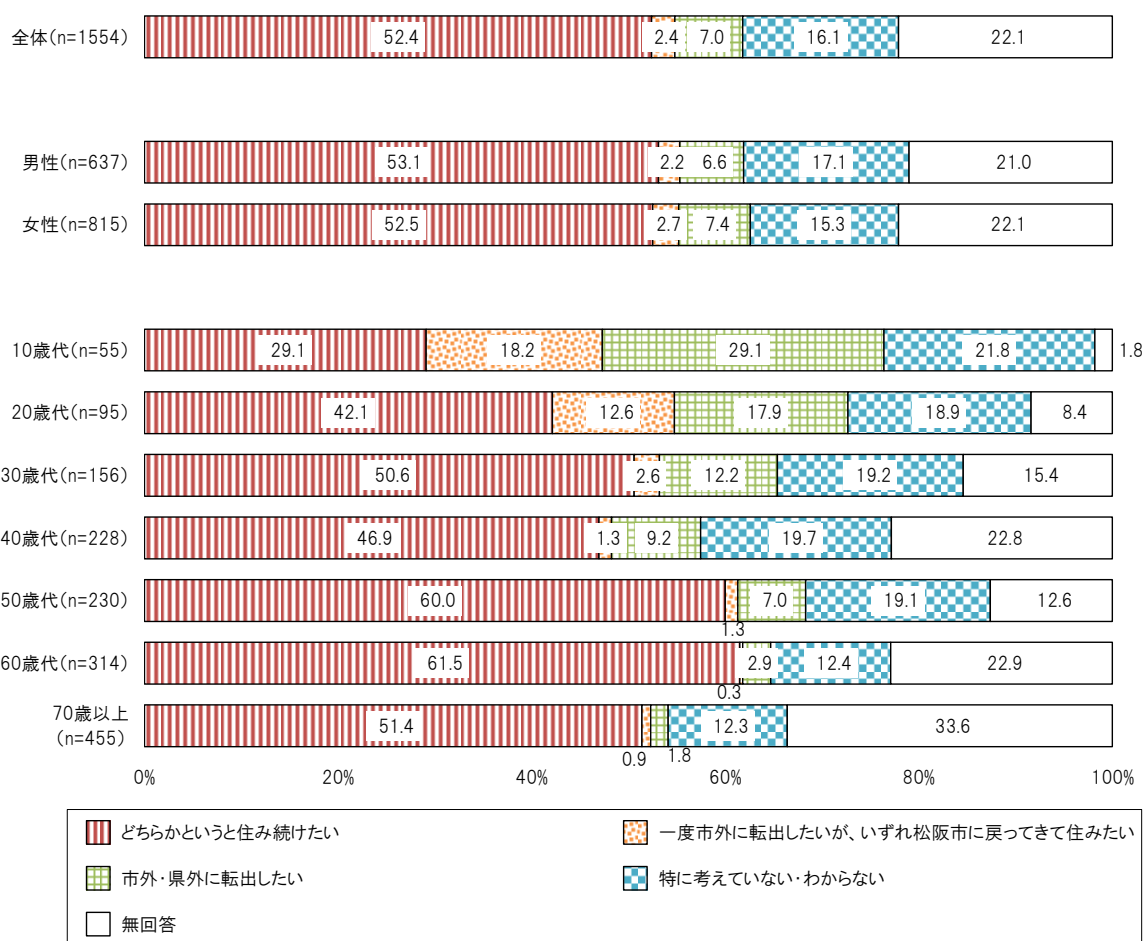
(1) あなたは松阪市に住み続けたいと思いますか。(〇は1つだけ)

「どちらかというに住み続けたい」が52.4%で最も高く、ついで「特に考えていない・わからない」が16.1%、「市外・県外に転出したい」が7.0%となっている。

性別にみると、男女で大きな差はみられない。

年代別にみると、おおむね年齢が高くなるほど「どちらかというに住み続けたい」の割合は高くなる傾向にあるが、40歳代では若干下がっている。

問11(1) 松阪市に住み続けたいか



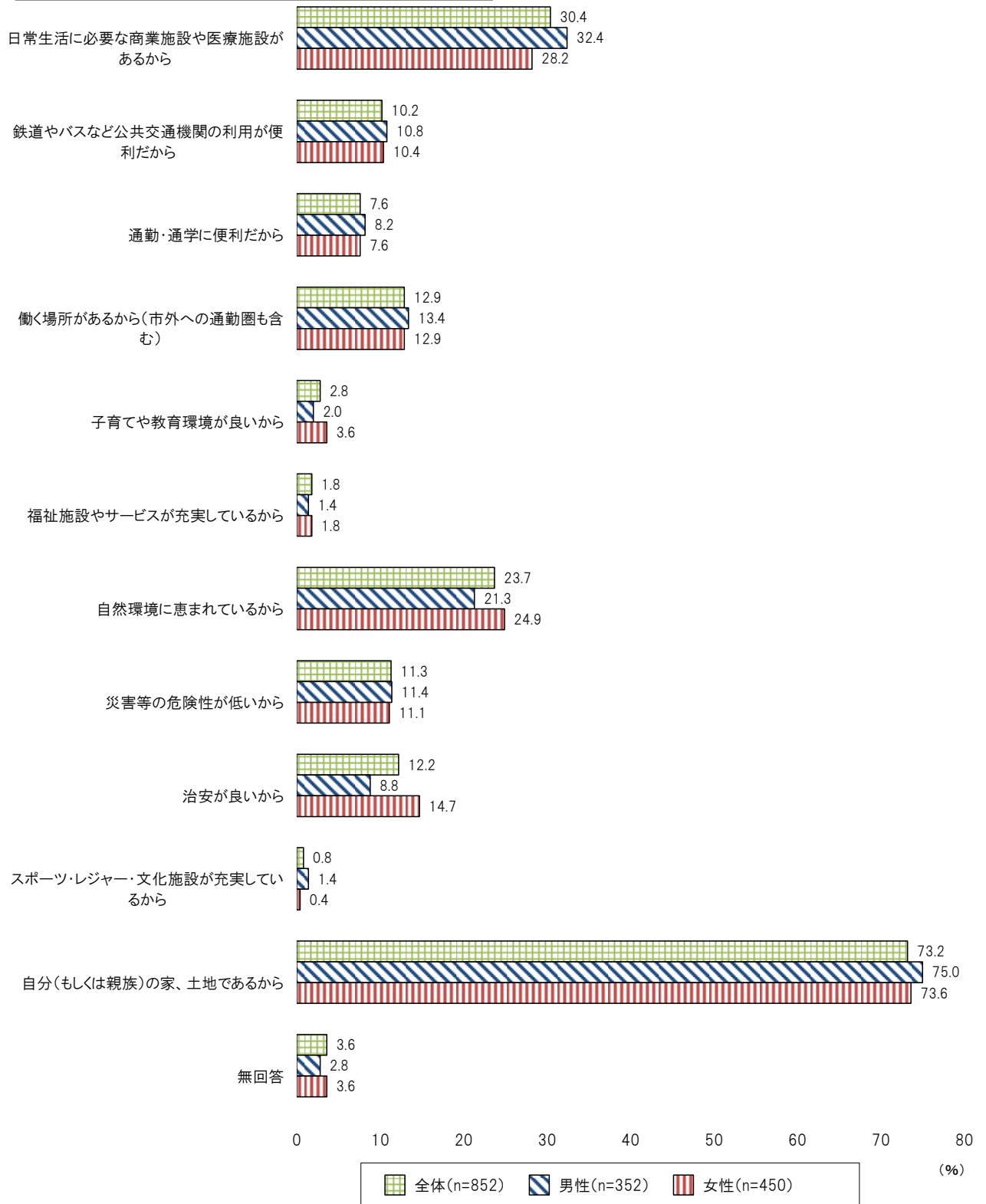
(2) 松阪市に住み続けたい、戻ってきて住みたい理由は何ですか。(〇は3つまで)

「自分（もしくは親族）の家、土地であるから」が73.2%で最も高く、ついで「日常生活に必要な商業施設や医療施設があるから」が30.4%、「自然環境に恵まれているから」が23.7%となっている。

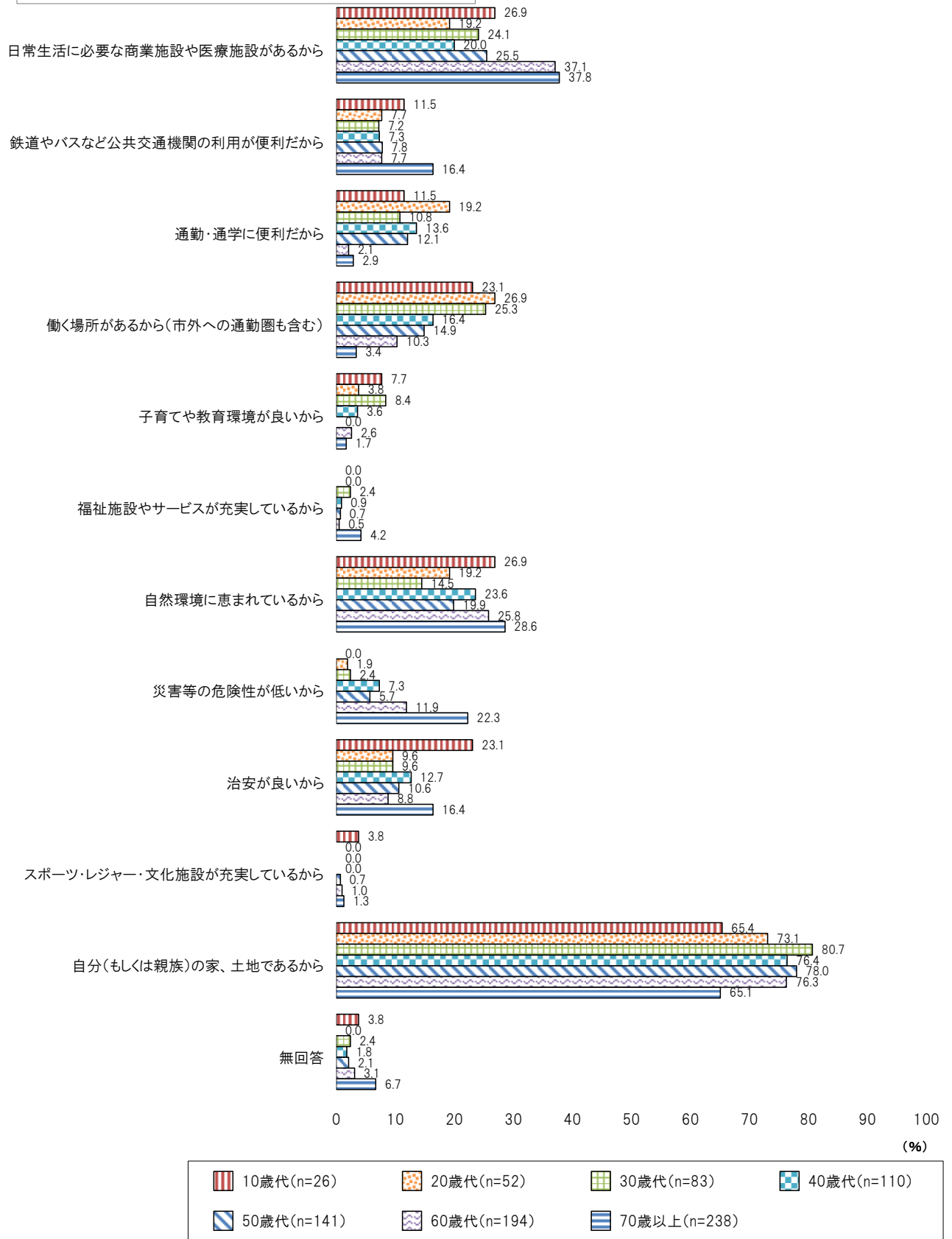
性別にみると、1番目、2番目、3番目に多い項目は男女で同じであった。男女の間で最も差が大きかったのは「治安が良いから」であり、女性の方が5.9ポイント高かった。

年代別にみると、1番目に多い項目はいずれの年代も「自分（もしくは親族）の家、土地であるから」であった。2番目に多い項目は、10歳代、50歳代以上では「日常生活に必要な商業施設や医療施設があるから」であり、20歳代、30歳代では「働く場所があるから（市外への通勤圏も含む）」、10歳代、40歳代では「自然環境に恵まれているから」となっている。なお、10歳代の2番目に多い項目は2つの項目が同率であった。

問11(2) 松阪市に住み続けたい、戻ってきて住みたい理由



問11(2) 松阪市に住み続けたい、戻ってきて住みたい理由



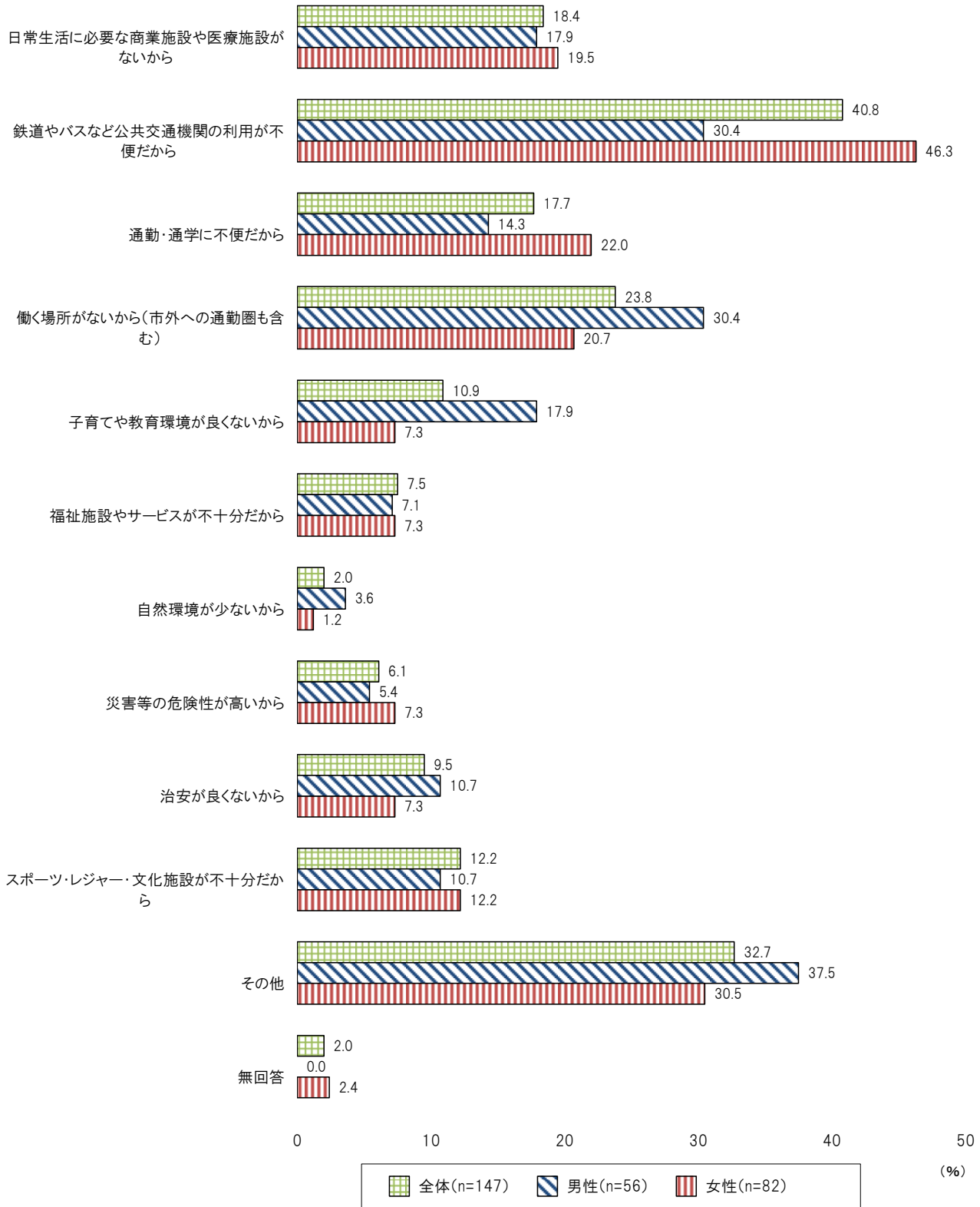
(3) 松阪市から出たいと思う理由は何ですか。(〇は3つまで)

「鉄道やバスなど公共交通機関の利用が不便だから」が40.8%で最も高く、ついで「その他」が32.7%、「働く場所がないから(市外への通勤圏も含む)」が23.8%となっている。

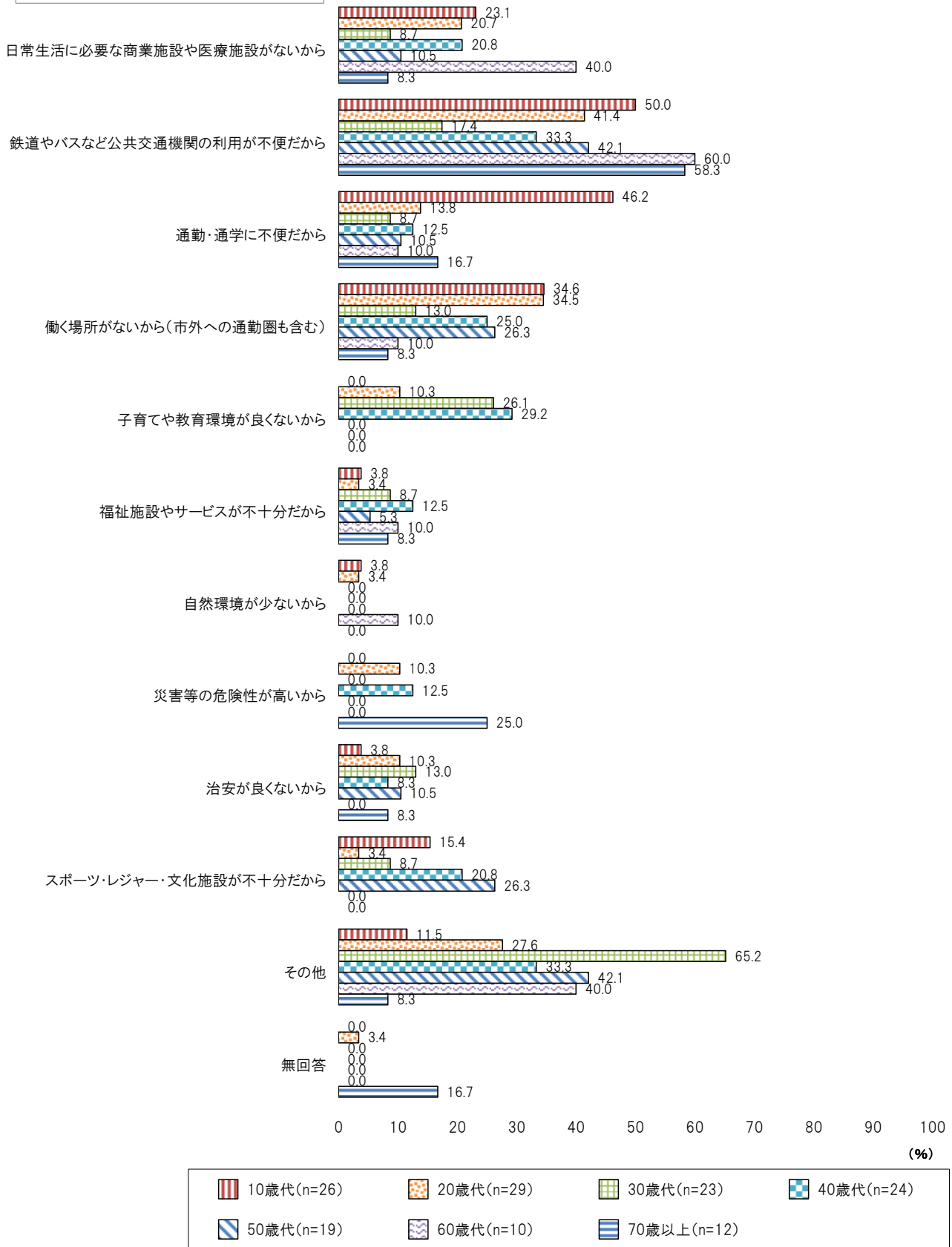
性別にみると、男性では「その他」の割合が最も高く、女性では「鉄道やバスなど公共交通機関の利用が不便だから」の割合が最も高くなっている。ついで多い項目は、男性では「働く場所がないから(市外への通勤圏も含む)」と「鉄道やバスなど公共交通機関の利用が不便だから」の2つの項目が同率で2番目に多く、女性では2番目が「その他」、3番目が「通勤・通学に不便だから」となっている。

年代別にみると、30歳代を除く他のすべての年代で「鉄道やバスなど公共交通機関の利用が不便だから」が1番多くなっている。30歳代は1番目が「その他」、2番目が「子育てや教育環境が良くないから」、3番目が「鉄道やバスなど公共交通機関の利用が不便だから」となっている。

問11(3) 松阪市から出たいと思う理由



問11(3) 松阪市から出たいと思う理由



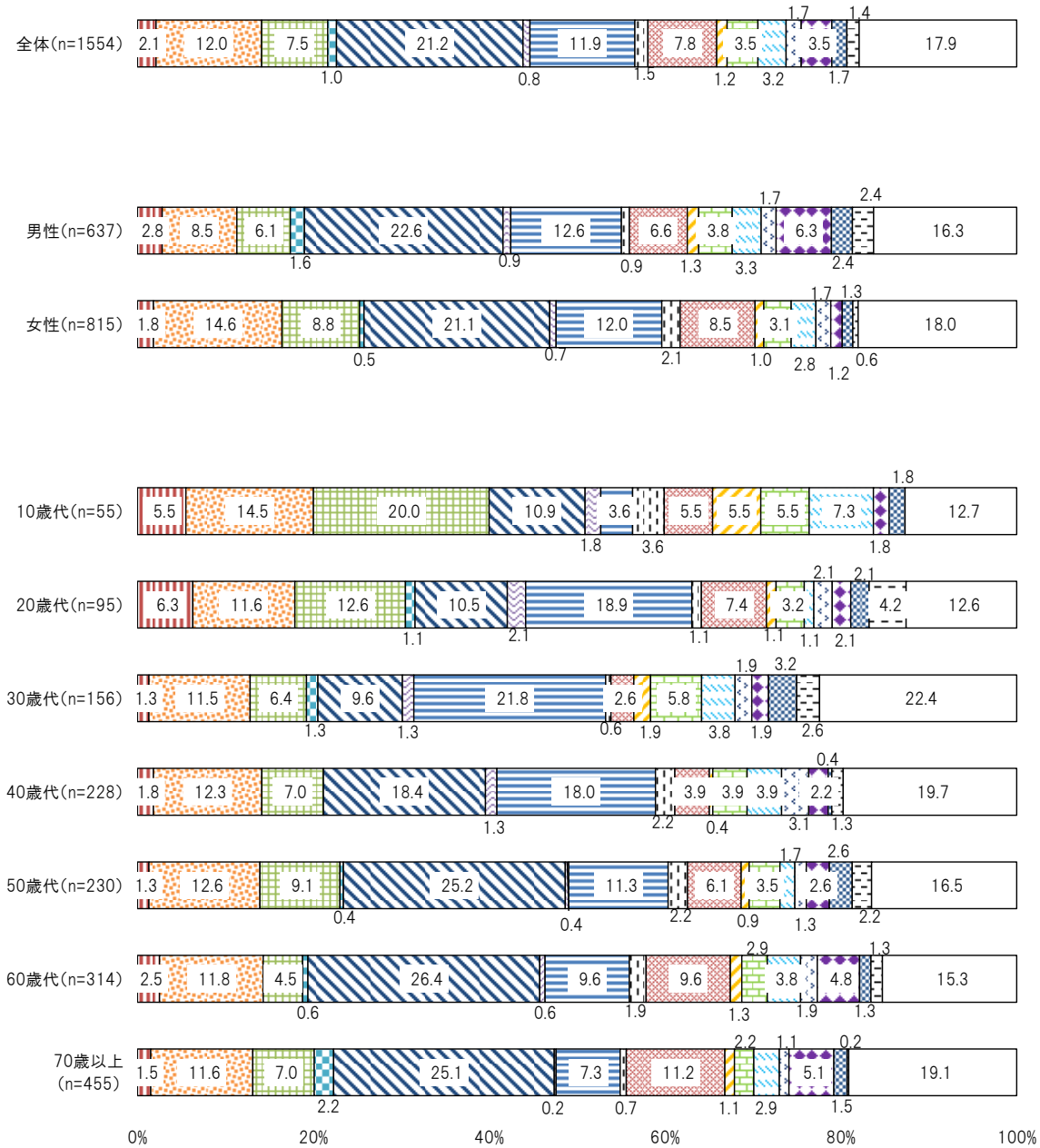
問 12 すべての方におうかがいします。今後、松阪市の人口を減らさないために、特に市が力を入れなければならない施策はどれだと思いますか。(〇は1つだけ)

「働く場の充実」が 21.2%で最も高く、ついで「公共交通機関の利便性の向上」が 12.0%、「子育て環境の充実」が 11.9%となっている。

性別にみると、男女ともに1番多かったのは「働く場の充実」で、2番目に多かったのは、男性は「子育て環境の充実」、女性では「公共交通機関の利便性の向上」であった。

年代別にみると、1番多かった項目は、40歳代以上で「働く場の充実」であり、10歳代では「買い物など日常生活の利便性向上」、20歳代、30歳代では「子育て環境の充実」であった。

問12 今後、松阪市の人口を減らさないために、特に市が力を入れなければならない施策はどれだと思うか



- 自動車での交通の利便性向上
- 公共交通機関の利便性の向上
- 買い物など日常生活の利便性向上
- 山や川などの豊かな自然環境保護
- 働く場の充実
- 文教施設(図書館やスポーツ施設)の充実
- 子育て環境の充実
- 教育環境の充実
- 福祉・医療環境の充実
- 防災対策の拡充
- 治安・まちの安全性向上
- まちなイメージの向上
- 良好な住宅環境(価格、広さなど)
- 産業の振興
- 移住の促進
- その他
- 無回答